

# 人工授精に関する説明書

## 1. 人工授精（AIH）の目的

排卵のタイミングに合わせて精子を子宮内に注入する不妊治療の一つです。まず採取した精液を洗浄・濃縮し、運動性の高い精子を選別したうえで、専用のカテーテルを用いて子宮腔内に注入します。精子を子宮内へ直接届けることで、精子と卵子が会う確率を高めることを目的とした治療方法です。

## 2. 医学的適応

通常の性交渉による妊娠成立の見込みが低いと判断される場合、人工授精の適応となります。具体的には、①性交障害、②軽度男性不妊、③原因不明不妊、④セックスストレス、⑤タイミングが取れないなどといったケースが含まれます。

## 3. 妊娠率と胎児への影響

AIHの周期あたりの妊娠率（子宮内に胎嚢を確認できる可能性）はおおよそ5～15%程度、出産に至る可能性（生産率）は数%～10%前後とされています。成功率は、妻の年齢や合併疾患、排卵誘発の有無、夫の精液所見、不妊期間、実施回数、排卵数などさまざまな要因に影響を受けますが、一般的には概ね10%前後とされています。AIHにより、胎児の先天異常リスクが上昇することは明らかになっていません。

## 4. 精子調整法

当日採取した精液を密度勾配遠心法により処理し、洗浄・濃縮を行ったうえで、運動性の良好な精子を使用します。

## 5. 実施時期・方法

AIHは、排卵の前日または当日に実施します。排卵日は、超音波検査、基礎体温、必要に応じて血液検査、尿検査を用いて予測し、医師が実施日を決定します。通常、超音波による卵胞チェックは排卵の3～4日前（月経10日目前後）に行いますが、卵胞が未成熟で排卵日の予測が難しい場合には、血液検査の追加や数日後の再検査を行います。再検査でも卵胞の発育が不十分な場合には、当周期のAIHを実施できないことがあります。

当日は、採取した精液を調整（洗浄・濃縮）し、運動性の良好な精子を選別します。精子のお預かりから調整、実施までにはおおよそ1時間時間かかります。処置は内診台で行い、調整した精子を細いカテーテルを用いて子宮内に注入します。処置時間は10分程度で、通常は強い痛みはありません。注入後はすぐに歩行していただいて問題なく、精液が多少流出しても妊娠への影響はありません。

## 6. 副作用・合併症

AIHは比較的安全性の高い治療ですが、まれに以下のような症状がみられることがあります。症状が強い場合は早めにご相談ください。

### 処置に伴う軽い症状

処置の刺激により、軽い下腹部痛や少量の出血がみられることがありますが、多くは一時的なものです。

### アレルギー反応

精液成分などにより、発疹やのどのかゆみといったアレルギー症状が出る場合があります。

### 感染

ごくまれに膣内の細菌が子宮へ迷入し、子宮内で炎症が起こることがあります。

### 卵巣過剰刺激症候群（OHSS）

排卵誘発剤を使用する場合、お腹の張りや痛みが出る場合があります。

### 妊娠に関するリスク

排卵誘発を併用した場合、多胎妊娠となる可能性があります。また、まれに子宮外妊娠が起こることもあります。

## 7. 費用

一般治療計画書に基づいて実施される場合は保険診療の対象となります。自費診療の場合は、16,500円（税込）となります。